

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：見沼たんぼ地域・景観形成ビジョン研究会

20A-55

代表者：代表 宇杉和夫

URL : <http://minuma-miraiisan.jp/>

### 1. 活動が必要とされた状況

地域の姿・景観は、「地域の自然環境条件」の基礎の上で、「時代のなりわい(暮らし・産業)」と「景観・風致に関する時代の価値観」の反映です。見沼たんぼ地域の景観も、時代の流れの中で大きく変わってきました。そして、現在期は、見沼たんぼ地域の景観の大きな変動期の真っただ中です。

首都近郊に残された貴重な「大規模田園緑地・見沼たんぼ地域」を、望ましい景観を持つ地域として、未来に向けて形成させていくための3年5ヵ月の研究活動の成果を、広く公表するため、141ページの「研究活動報告書」を作成・印刷し、シンポジウムの開催と関係者・関係団体・関係機関に報告書を配布しました。



### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 26 年の 6 月以来、16 名の研究会会員で 29 回の研究会を重ね、見沼たんぼ地域を、将来に向けて望ましい景観を持つ「大規模田園緑地」として形成させていくための研究活動を行ってきました。その研究成果について、平成 29 年の 11 月にとりまとめ、印刷し、広く公表しました。

また、平成 29 年 11 月 25 日にシンポジウム「見沼たんぼ地域 景観・未来へのビジョン」を開催し、報告書を踏まえた研究協議を行いました。



### 3. 活動の成果

「観光地域」ではないさいたま市の行政機関等にとっては、景観条例を策定してはおりますが、具体的な景観行政施策は、「建物景観」など、きわめて部分的なものに限られてきているのが現状です。

このような状況の中で、見沼たんぼ地域という広い地域の景観形成の課題に踏み込んだ研究活動として、図書館や市民団体などからの関心も高く、報告書を求めたいとの要望にも高いものがありました。

景観形成活動は、すぐに成果が現れるものではありませんが、報告書をベースに、見沼たんぼ地域での景観形成活動を息長く活動を持続していくための基礎が築けたものと考えています。



### 4. 今後に残された課題

見沼たんぼ地域は、首都 20~30km という都市近郊にある「大規模田園緑地」です。このため、既存の都市的土地利用地区での風致・環境の改善や斜面林の開発の進行への対応、減少する水田景観の保全対策、負の遺産「不法残土地区」への対応などが喫緊の課題です。